

# 済生会兵庫県病院 公的医療機関等2025プラン

平成31年3月 策定

**【済生会兵庫県病院の基本情報】**

医療機関名：済生会兵庫県病院

開設主体：社会福祉法人<sup>恩賜</sup>済生会<sub>財団</sub>

所在地：兵庫県神戸市北区藤原台中町5丁目1番1号

許可病床数：268床

(病床の種別) 一般：268床

(病床機能別) 高度急性期：27床

急性期：185床

回復期：56床

稼働病床数：262床

(病床の種別) 一般：262床

(病床機能別) 高度急性期：21床

急性期：185床

回復期：56床

※ 休床6床(GCU)については、体制(看護師確保)が整わず休床している。今後は、急性期病棟して活用する。

診療科目：内科、外科、小児科、産婦人科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科  
眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科、泌尿器科、循環器内科、腎臓内科  
呼吸器内科、麻酔科、放射線科、歯科口腔外科、消化器内科、  
リウマチ科、アレルギー科、リハビリテーション科

職員数：医師46人、看護職員239人、専門職67人  
事務職員49人、その他の職員19人  
(H29.12時点)

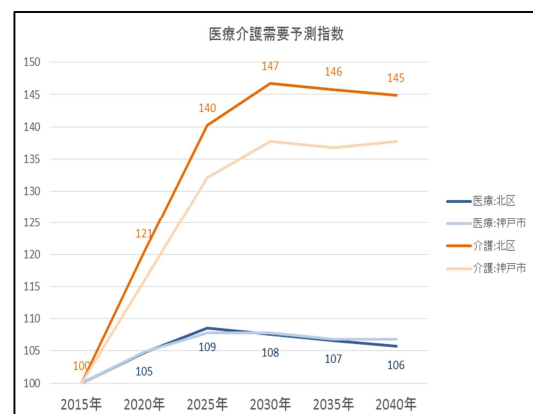
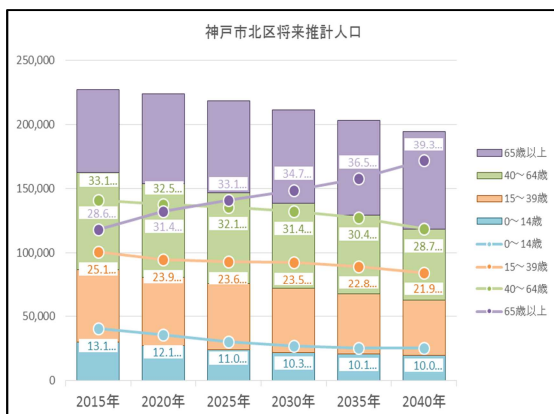
## 【1. 現状と課題】

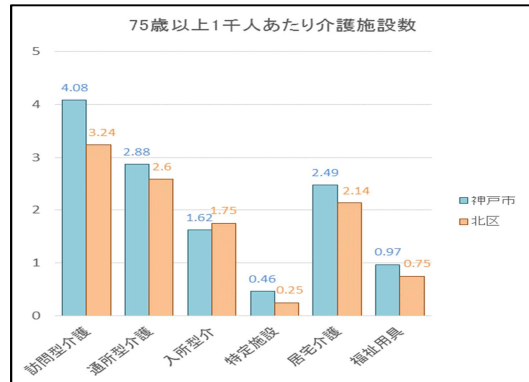
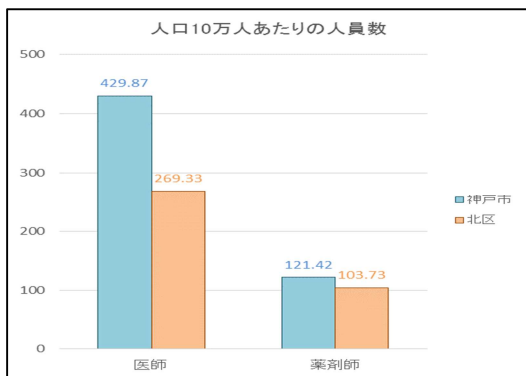
### ① 構想区域の現状

- ・神戸市北区の将来推計人口は、全国と同様に今後 20 年間は人口が減少すると推計されている。2025 年までの出生率は 2.01%低下する一方、65 歳以上の高齢者率は 4.53%上昇し 33.14%と、今後 10 年間で一気に高齢化比率が上昇する。
- ・地域の医療需要の予想については、神戸市の平均と同様に、今後 10%程度の伸びが予想されているが、介護需要の予想については、高齢化の上昇率が神戸市に比べ高いことから、今後 15 年で約 50%増の需要が予想されている。
- ・2025 年の計画値に対する医療提供体制については、高度急性期病床は大幅に不足しており、急性期病床は若干過剰、回復期病床は不足しており慢性期病床は過剰となっている。また、医療資源となる人口 10 万人あたりの医師数については、神戸市平均が 429.87 人に対し、北区では 269.33 人と大幅に不足している。(H29.12 時点)  
介護の提供体制についても、75 歳以上 1 千人あたり介護施設数が神戸市平均を下回っている。

### ② 構想区域の課題

- ・今後10年で一気に高齢化が進み、医療介護の需要が高まるが、高度急性期を合わせた急性期、回復期の病床が不足する可能性が高い。また、医療ニーズを持つ患者が在宅へ移行することから、往診、訪問診療・訪問看護・リハ等、入院とリンクした在宅医療体制の充実が重要となる。しかし、在宅医療においても医師、看護師、ケアマネなどの人材を確保することが困難な地域である。特に北区の医師については、平成26年度統計の人口10万人あたりの医師数が全国平均を大きく下回っている状況である。また、平成30年度より医療技術の向上等を目指した新専門医制度がスタートしたが、手術や症例数が多い大規模病院（研修基幹施設）に集中することが予想され、医師の確保はさらに困難となる。  
北神地区の急性期医療体制を維持・充実させるには急性期医療の集約化など具体的な対策を講じる必要がある。
- ・災害医療体制については、北神地区は神戸医療圏であるものの三田市や西宮市北部と隣接していることから、医療圏域を超えた協力・連携が重要である。当院は、神戸市災害対応病院に指定されており、災害時には神戸市地域災害マニュアルに沿って行動することになっているが、実際に大規模災害が発生した場合、交通網の寸断により北神地区が孤立し、負傷者等を最寄りの災害拠点病院に搬送することが出来ず、災害時の医療機能に大きな不安がある。更に、北神地区の医療機関の自家発電能力が最長8時間であることから、通常の診療機能も失う可能性があり六甲山系以北で基幹的役割を担えるような病院の確保、連携の強化が急務である。





(H29.12時点)

### ③ 自施設の現状

平成28年7月に地域医療支援病院の認可を受け、北区の基幹病院として総合的に急性期医療を提供している（H28年度実績：紹介率65%、逆紹介率84%）。

地域周産期母子医療センターに指定されていることもあり、北区でのMDC別シェアでは、新生児、小児、女性で50%以上を占め、その他乳房、筋骨格でも50%以上、ついで呼吸器、消化器、眼科、循環器科でのシェアが高い。

特に呼吸器外科は北摂地域で他になく、その役割は大きい。消化器内科と整形外科については、医師の増員が図れ、症例数が増加している。

入院患者の地域比率は、圏域内では北神50%、その他北区5%、神戸市2%、圏域外では三田18%、西宮14%、その他11%と圏域外患者が多く、圏域の境に立地していることや地域周産期母子医療センターが広域をカバーしていることによるものである。（H29.12時点）

#### (5疾病5事業)

##### ・5疾病

当院では、脳卒中、精神疾患対応はできない。

がんについては、がん診療連携拠点病院に準ずる病院として、がん治療センターを設置し、地域でのがん患者治療に積極的に取り組んでいる。急性心筋梗塞についても、神戸市二次救急の循環器当番を受け持つなど地域ニーズに応えている。糖尿病については、専門医による診察を行うため、現在、他院への研修派遣を行っており、来年度より専門医による診察を開始する。

##### ・5事業

##### (周産期医療、小児医療)

周産期・小児医療に関しては、平成25年に周産期母子医療センターをリニューアルし、あわせて小児専用病棟を新設した。兵庫県保健医療計画においては、神戸・三田を圏域とする小児地域医療センター、地域周産期母子医療センターとして位置付けているが、更にそれを越えて篠山、西宮北部を含めた広域を対象とした地域において、中心的な役割を果たしている。

##### (救急医療)

神戸市二次救急輪番の一員として「断らない救急」を目指しているが、マンパワー不足で十分に貢献できているとは言い難い（H28年度実績：件数1,366件、応需率75.3%）。

産科・新生児に関しては、24時間ホットライン対応を行っており、特に小児救急に関しては、二次救急輪番の一員としてその役割を果たしながら、地域性を考慮し、人員不足の中、急を要する症例に対しては1次救急も倫理的な判断で対応している。

#### (災害医療)

当院は、神戸市災害対応病院に指定されており、災害時には、基本的に神戸市地域災害マニュアルに沿って行動することになる。緊急時には、災害対応病院を中心に二次救急輪番病院が協力する体制を構築するべく、北区病院部会で検討を進めている。しかし、実際、大規模災害が発生した場合は、交通網の寸断により北神地区が孤立する可能性があり、基幹的病院の役割を担えるよう医療機能の確保及びハード面の整備が必要である。

#### ④ 自施設の課題

- ・平成30年4月の医療・介護の診療報酬改定では、7：1看護必要度をさらに厳しくするなど急性期機能を有する病院にとって厳しい改定となったが、当院は北神地区の中核病院であることから急性期機能を維持し、より多くの重症度患者を受け入れる必要がある。
- ・特に周産期医療については、北神、三田、西宮北部など、医療圏域を超えて医療を提供しており、引き続き他圏域からの患者を受け入れ、質の高い周産期医療を提供する必要がある。
- ・さらに医療技術の高度化と専門性の強化で信頼性を高め、紹介患者の受入れ体制を充実させる一方、多疾病罹患、認知症、虚弱の3要素を持つ高齢者に対するプライマリーケアの強化や、総合内科的視点を持つ医療をバランスよく提供していく必要があると考えているが、そのためには優秀な医師の確保や育成が課題である。また、高齢化が進むにつれ糖尿病患者が増えてくることから、糖尿病専門医を確保し生活習慣病の発症予防にも努める必要である。
- ・救急については、北区二次救急輪番の一員として、小児、循環器、消化器外科、整形外科の専門科目の救急患者を積極的に受け入れている。基幹病院として「断らない救急」の推進により地域医療に貢献していく必要があるが、医師のマンパワーは現状でも不足しており、数多くの救急患者を受け入れている他の基幹病院のような若い医師が集まる病院となる必要がある。
- ・周産期医療については、北神、三田、西宮北部など、医療圏域を超えた医療を提供しており、引き続き質の高い周産期医療を提供していく必要がある。
- ・急速に進む高齢化への対応については、地域医療支援病院としての役割を果たしつつ、介護・福祉施設との連携を図り、高齢者が住みなれたところで安心して暮らせるよう地域包括ケア病棟を利用した効率的な病床運用や、平成29年4月に開設した障害者福祉サービスの短期入所事業(レスパイト)を中心とした在宅療養後方支援の強化など地域包括ケアシステム構築にも積極的に協力し、急速に進む高齢化に対応していく必要がある。
- ・今後、北神地区の中核病院として急性期機能を維持しつづけるためには、新専門医制度等の医師の需給環境に大きな影響を与える変化に適切に対応していく必要がある。このため、地域医療構想にも明記されている六甲山系以北での医療連携を図る中で、広域的な再編・ネットワーク化も視野に入れた急性期の拠点病院づくりについても検討する必要がある。

**【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載**

**1 地域において今後担うべき役割**

① 急性期医療

公的病院としての責務を果たしつつ、地域の中核病院として専門的・総合的な診断治療を行う。

② 周産期医療

北神、三田、西宮北部など、医療圏域を超えて医療を提供しており、引き続き他圏域からの患者を受け入れ質の高い周産期医療を提供する。

③ 救急医療

神戸市二次救急輪番の一員として、「断らない救急」を推進し北神地域の救急体制に貢献する。

④ 地域医療

地域医療支援病院として、紹介・逆紹介の向上に努めます。また、地域の医療従事者に対する研修会を毎月実施するなど、地域医療の充実に貢献する。

⑤ 医療介護連携

済生会は、医療だけではなく介護・福祉施設を有することから、高齢者へ住み慣れた地域で入院医療から在宅医療までの切れ目のないサービスが提供できるよう、地域包括ケアシステムの構築に積極的に関与する。

**2 今後持つべき病床機能**

今後、地域周産期母子医療センターの高度急性期病床(21床)、地域の中核病院としての責務を果たすための急性期病床(191床)、サブアキュートの受け入れとしての地域包括ケア病棟(56床)を維持していく。

**3 その他見直すべき点**

I T連携を見据えた在宅・介護へのシームレスな患者情報の提供

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	21床	→	21床
急性期	185床		191床
回復期	56床		56床
慢性期			
(合計)	262床		268床

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度			
2018年度			
2019～2020 年度			
2021～2023 年度			

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病床稼働率：</li> <li>・ 手術室稼働率：</li> <li>・ 紹介率：</li> <li>・ 逆紹介率</li> </ul> <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人件費率：</li> <li>・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：</li> </ul> <p>その他：</p>
--

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

--